

パネルディスカッション 8 : 認知症高齢者の入院時・退院時支援の現状と課題について

演題名	認知症高齢者の入・退院に際しての支援の現状と課題～MSW の立場から～
------------	-------------------------------------

概要

「認知症高齢者」の生活をいかにして住み慣れた地域で支えるかは、地域包括ケアシステムにおける重点課題の一つである。「認知症高齢者」に対して、地域的かつ包括的に取り組むことはどのようなものなのかを再確認し、「認知症高齢者」を切り口に議論することは、「認知症高齢者」に対してだけでなく、医療機関、医療と介護の連携、生活支援の課題をも明らかにする糸口となる。

当院（群馬県高崎市）は、医療圏内において唯一の救命救急センターを有し、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院等の機能をもつ急性期医療機関である。当院における「認知症高齢者」に対する支援は、救急医療の提供をはじめ、鑑別診断、治療、BPSD の対応、そして終末期ケアと多岐に渡る。医療ソーシャルワーカー（Medical Social Worker: MSW）は、「認知症高齢者」やその家族への適切なソーシャルワークを展開するために、医療機関における地域特性や、地域でのニーズを把握する必要がある。特に「認知症高齢者」の入院に際しては、入院時より退院後の生活を見据えた生活移行支援が求められ、地域のかかりつけ医、在宅療養支援診療所（病院）、ケアマネージャー、地域包括支援センター、認知症疾患医療センター等との連携は不可欠となる。

しかし、医療と介護の連携が十分に機能しているとは言い難く、地域包括ケア体制において早急な課題と言える。そこで、本パネルディスカッションにおいて、MSW 支援の取り組みとして、ミクロレベルの個別事例だけではなく、地域におけるメゾレベルの取り組みについて振り返り、「なぜ、医療と介護の連携は難しいのか」を考察することで、「認知症高齢者の入・退院に際しての支援の現状と課題」を明らかにしていきたい。